

今月号のトピック

- 2005年4月、5月、6月のコース日程
- 現場からの技術的質問 - SCM

デレック・グレンが現場からの技術的な質問にお答えします。今回はソフトウェア構成管理に関してです。

Q. ベースライン監査についてどのように考えますか？
これはわたしの考えですが、利用可能なツールセットに応じて解釈の余地があると考えています。

- 構成することが宣言されているコードアイテムの物理的なベースラインが存在している
- ビルドの構築を開始し、進めるのに必要な文書が存在している（要件、設計、変更要求、テストなどの文書）
- ベースラインに関係する全ての変更要求は、ベースラインの中に成果物を持つ変更要求と関係する構成アイテムだけを持ち、必要とされない他のアイテムは出荷されていない

また、プロジェクトごとの構成管理計画に対して、いくつかの指令において各製品領域ごとに98%方完成した計画を持っており、それらに具体的なプロジェクトデータを追加、またはITプロジェクト計画内のそれを参照するようにしています。私たちは、各プロジェクトに対して新しい計画を作るというよりは、むしろこのようにして既に確立している構成管理方法を使うようにしています。

これは許容可能でしょうか？

Richard Whitwell, UK Banking Sector

A. まず、製品の領域ごとに標準的なソフトウェア構成管理計画を作成し、プロジェクトがそれぞれの特有のニーズに合わせて使用するという考え方は、それによってプロジェクトチームメンバー（および関係者）が必要とする適切な情報と、構成管理のガイダンスを実際に提供していて、単に表にチェックをするだけの作業になっていないのであれば、問題はありません。

第2に、あなたのプロジェクトで構成管理ベースラインを構成するものは何かと考えたときに、そこにコード、文書を含め、プロジェクトに組み入れている合意された変更全てを考慮しなければならない、という考えに賛成です。

第3に、「ベースライン監査」には解釈の余地がある、というあなたの考えは正しいです。唯一の「正しい」答えはないのですが、ここで私が望むことをいくつか述べたいと思います。私はプロジェクトの開始時に構成管理計画を見たいと思います。構成管理計画には、構成管理のアプローチが定義され、プロジェクトでの構成アイテムが一覧になっており、意図するベースラインとその内容が特定されていてほしいです。また、プロジェクトの期間中、構成項目それぞれの状態を把握する方法 おそらくは構成登録簿、あるいは版数、オーナー、チェックイン/チェックアウトの状態、そのアイテムがどのベースラインがどの項目の一部なのかといったことを把握するためのツールなどが必要だと思われます。

構成監査を行う段階では、責任者を割り当てて、それぞれのベースラインを保管するためのセキュアなサーバまたはレポジトリを物理的に調べ、そこに保管されるはずの構成アイテムがそれぞれ実際にそこに保管されていること、さらに保管している版が正しく、不当にあるいは誤って改ざん、編集あるいは削除されていないことを確認させるとよいと思います。外部からの生産物を素早く確認することも行わなくてはなりません。これらの監査は、プロジェクトで使用する構成管理プロセスが実際に効果的であることと、適切なレベルの安全性や制御の維持を確実にすることを目的として適切な頻度でのみ行うべきです。

2005年4月、5月、6月のコース日程

CMMI コース

入門コース(全4日間)

5月16日(月)~5月19日(木)

アセッサコース(全4日間)

6月13日(月)~6月16日(木)

ISO15504 コース

アセッサコース(全3日間)

4月26日(火)~4月28日(木)

全コース共通リードアセッサコース

(全3日間)

6月28日(火)~6月30日(木)

お問合せ

株式会社 コンピータジャパン

〒103-0016

東京都中央区日本橋小網町 19-7

電話 03-5649-2003

FAX 03-5649-2637

e-mail: welcome@compita-japan.com

http://www.compita-japan.com/

*全てのコースは熟練した通訳者が逐次通訳を行いますので、語学のご心配は不要です。テキストも日本語です。

**能力成熟度モデル CMM, CMMI は、カーネギーメロン大学によって、米国特許商標庁に登録されています。